

# 純心大学ニュース

(題字の色はスクールカラーの「ブルー」です)

編集・発行  
 長崎純心大学  
 広報委員会  
 平成25年3月21日発行  
 〒852-8558  
 長崎市三ツ山町235番地  
 TEL 095(846)0084(代)  
 FAX 095(840)0470(代)  
 URL  
<http://www.n-junshin.ac.jp/univ/>

## 巻頭言

### 本学学生、ドイツ・メルケル首相と面会 ～もう一つの「取り次ぎ」～

人文学部長 荒木 慎一郎



メルケル首相(中央・カウダー議員(左端)と本学学生たち

(ドイツ連邦議会にて)

ドイツのアンゲラ・メルケル首相は、政治・経済の分野でアメリカのオバマ大統領に次いで、世界で二番目に大きな影響力を持つ人物だと言われている。日本の国会議員でもドイツを訪問して、メルケル首相に直接会うことは難しいとされるが、その夢のような面会を果たした三人の学生が本学にいる。英語情報学科四年の池田悦子さん、同三年の宮崎いずみさん、人間心理学科三年の有馬みさとさんがそれである。

この面会は、二つの「取り次ぎ」によって実現した。第一の「取り次ぎ」は二人のドイツ要人によるものである。一人はフォルカー・シュタンツェル駐日ドイツ大使であり、もう一人はドイツ連邦議会議員で、与党キリスト教民主同盟の議員代表でもあるフォルカー・カウダー氏である。カウダー議員は、メルケル首相の名代として長崎の平和祈念式典に出席されるに先立ち、シュタンツェル大使を通して、本学で講演と学生たちとの対話集会を行いたいと申し出られた。本学はこの申し出を快諾した。

八月九日、本学を訪れたカウダー議員は、現代でも一部の国でキリスト教徒が迫害されている事実を示し、信仰の自由の実現の重要性を訴えかけられた。その後、集まった六十人の学生とカウダー議員との活発な対話が行われた。学生の側からの質問は尽きることなく、中には鋭い問題意識に満ちた質問も多くあった。学生とのやり取りに満足されたカウダー議員は、対話の最後に、三人の純心大学生をベールリンのドイツ連邦議会に三週間招待したいと申し出られた。

シュタンツェル大使の要請に従って、学内での第一次選考、オルブリッヒ・ドイツ総領事を交えた最終選考が行われ、先の三人の学生のドイツ連邦議会派遣が決定した。その後ベールリンで、カウダー議員とシュタンツェル大使との研修内容に関する打ち合わせが行われ、その結果メルケル首相と学生との面会が実現した。

カウダー議員の長崎訪問の重要な目的の一つは、長崎におけるキリシタンの殉教と潜伏の歴史について学ぶことにあった。シュタンツェル大使もキリシタン史に重大な関心を持っておられ、そこからカウダー議員に長崎訪問を勧められたのであった。

二百人以上の純心の生徒と教員の命が奪われた八月九日が機縁となり、長崎の迫害されたキリシタンに心を寄せる二人のドイツ要人によって可能となった「歴史的な」面会。学園の一員として、すでに天に召された方々のもう一つの「一層根本的な「取り次ぎ」」を思わざるを得ない。

### ～目次～

- 1 …… 巻頭言
  - 2・3 …… 学科トピックス
  - 4・5 …… 特集《卒業論文発表会》
  - 6・7 …… 就職先から
  - 7 …… ゼミ活動
  - 8 …… トピックス
- 「東日本大震災被災者支援活動について」